

季刊 WILL

Work, Inclusion, Life & Love...

夏号



WILL 新体制始動



2023年度第1回総会において引き続き2023年WILL運営委員長を拝命しましたくろちゃんこと渡邊一真です。よろしくお願いたします。

さて、早速ですがWILL運営委員長として皆さんにお願いしたいことがあります。それは「伝えるから伝わるへの転換」です。今年は直接出会う対話や活動する機会が増えます。それにとまって様々な情報が大量に出されるのですが、これらの情報は本当に「伝わっている」のでしょうか。理解してもらっているのでしょうか。WILLには様々な属性のメンバーがいます。「伝わっていない情報（＝理解できない情報）」は無意識のうちに区別や排除を生む温床にもなりません。「なんでこれがわからないの？」

目次	1
挨拶	2
ルーム体制	4
活動報告	5
邑久プログラム	6
祝島訪問・田植え	7
大船渡訪問・あーち合宿	8
アースデイ神戸2023	10
WILLsコラム	12
事務局だより	10
夏の活動紹介	8



交通費補助ポイント制度

WILLの認定する活動にWILLメンバーが参加した時の交通費を一部補助する仕組みです。1回あたりの交通費の半額を補助（上限2000円）します。1ポイント=100円とし、2024年2月末に換金します。ぜひ積極的にご利用ください！

「情報見てない人が悪い」「それぐらいわかってよ」などなど、一方的に発信者の「思い」が強くなっていないでしょうか。この間、WILLではインクルーシブなコミュニケーションを標榜していますが、これは「看板」や「掛け声」だけで達成できません。メンバーそれぞれの意識と工夫が大事になります。

WILLとは「多くの人や団体とともに、『持続可能な開発のための教育（ESD: Education for Sustainable Development）』を推進していくユース主体の組織です。あらゆる人が関わりながら『持続可能な開発（SD）』を実現できる社会を創っていくための多層多元的な〈出会い〉や〈つながり〉のあり方・方法を、メンバー自ら



Kintone の使用

WILLではコミュニケーションや情報のシェアを活発にするために様々なアプリを使用しています。今年度から新しく“Kintone”を使うことになりました。WILLメンバーは選択したルームで行われるミーティング情報、メンバーからの質問等、各ルームのスペースで確認することができます。



動きながら考え、社会に提案していきまじう」としてきます（WILLホームページより）。「あらゆる人」と関わり、「へつながり」のあり方・方法」を「社会に提案」することを実現するためには、伝えるだけではなく「伝わる」ことを大切にしないとイケないと思います。

まずはこの1年、常に「自分の流した情報はみんなに伝わっているのか」「自分の活動や思いはみんなに伝わっているのか」「どうすれば（工夫すれば）伝わるのか」など相手に「伝わる」ことを意識して活動していきませんか。

（運営委員長 渡邊一真・くろちゃん）

ルーム間の移動は自由です。各ルーム行き来してみてください！

2023

NEW

ルーム体制

新制度
スタート！



2023年度より、これまでプロジェクトベースで動いていた WILL の活動を「ルーム」として WILL メンバーの関わりをより活性化していきます。原則、WILL メンバーは5つのいずれかのルームを選択し、そのルームを起点に、さまざまな活動に出かけていきます。もちろん、選んでいないルームの活動や企画づくりにも参加できます！ルームに入ったら即座に運営の主体になる、ということではなく、それぞれのライフスタイルに合わせて活動を続けていくことができます。まずは活動の入り口を気軽に選んでみてください！5つのルームをご紹介します！

ワークキャンプルーム

ワークキャンプルームは様々なフィールドに合宿型のボランティア活動であるワークキャンプという手法で関わり、多様な当事者性をもつ参加者とともに非日常的な空間の中で身体を動かしながら自分達の価値観やライフスタイルについて問い直すことをねらいとしています。2007年から実施している邑久光明園での夏のワークキャンプをはじめとして、ワークキャンプの実施に向けたスタッフトレーニングプログラムやワークショップ等の企画・運営を行っています。WILLの活動の原動力はワークキャンプにあり！？WILLに関心を持ったあなた、ぜひ、まずはワークキャンプに参加してみてください！きっとこれまでにない世界が広がるはず！（ルーム代表：ぽん吉 堤拓也）



災害復興支援ルーム



災害復興支援ルームでは、「復興支援」をテーマに、みんなが緩やかにつながることを目指して活動しています。主な活動は、東日本大震災の被災地への大船渡 ESD プロジェクトの運営や阪神淡路大震災へのあすパ・ユース震災語り部隊、熊本豪雨災害から始まる多大学プラットフォームへの参加です。災害復興にはもちろん現地での活動が必要であり、現場のニーズへの対応も多くなりますが、同時に支援の継続や多角化には委託販売や募金活動などの被災地外での活動も必要です。災害復興の経験が豊富な神戸から、日々の防災・減災とともに発災時の復興支援に備えて、動きをだせる集団をみんなで作っていきましょう！（ルーム代表：両万 長田真人）

農村レジリエンスルーム

農村レジリエンスルームは農村の人々との交流や農業体験を通して、農村のもつ「しなやかな強さ(レジリエンス)」とはなにかを探ることをテーマに活動しています。農村には季節感や温度感、音、風、においなど自然にあふれるものやトラクターの音や肥料のにおいなど人工のものまでさまざまな五感を感じる空間があり、そこで繰り返される人々の営みに引き込まれる魅力があります。

活動内容は、丹波篠山市で他団体のミチのムコウと行う田植えや稲刈り、加西市での農レジ主体の古民家再生プロジェクトなどの農体験を通じた交流など、自然に触れ感じることを大切に活動しています。また、月2回『二十四節気の茶会』を開き、農レジについて深め合ったり、日々の活動の共有を行ったりしています。これらの活動に参加し、農の空気を一緒に吸いに行きましょう！（ルーム代表：カンクロ 工藤大智）



居場所づくりルーム

居場所づくりルームは、「よる・あーち」「障がいのある青年の生涯学習支援会女子会+」「お茶の間ぷちだがし屋さん」といった活動に、メンバーが積極的に誘い合いながら参加しています。毎月8日には、メンバーそれぞれが活動のおみやげ話を持ちよって語りあうルーム定例会を実施し、“居場所ってなんだろう”“居場所という存在はESDの推進にどうつながる？”というテーマを深めていくことをめざしています。障がい共生や子どもとかかわることに関心のある方、「ひとりで活動するのはちょっとこわい…」という方、わたしたちといっしょに活動に出かけてみませんか？（ルーム代表：DD 八木昌文）



グローバルツアールーム

グローバルツアールームは、今年度から新設されたルームです。2010年ごろに、ESD ボランティアぼらばん(WILLの前身)で海外でのスタディツアーが実施されていましたが、東日本大震災以後、スタディツアーの企画が立ち行かなくなりました。このルームは、その再スタートとしての意味ももっています。

具体的には、多様な課題(原発問題/少子高齢化/まちづくり、貧困/格差/ジェンダー等)を抱える現場(特に、山口県上関町、インド・ムンバイ)に足を運び、現地での生活や固有の価値観にふれることのできるツアープログラムを企画します。自分たちのライフスタイルを見直しながら、新しいアクションが生まれてくる仕掛けづくりと一緒に考えてみませんか？

(ルーム代表：ダンロップ 後藤聡美)



ワークキャンプ
ルーム

ゴールデンウィーク 邑久プログラム

場所：国立療養所邑久光明園

日時：4月28日～30日



テント準備



邑久プロはワークキャンプルーム今年度最初のプログラムとして、4月28日～30日の三日間、岡山にある国立のハンセン病療養所、邑久光明園で海岸清掃を中心に行いました。邑久光明園での大人数での宿泊のプログラムは約2年ぶりでした。コロナ明けでワークキャンプを実践したことがないメンバーが多く、この活動を起点にワークキャンプのことを少しでも知れて、ルームが始動することを目的としていました。参加者にはなんらかの役割を主体的に動いてもらい、誰もがプログラムに関わっていることは意識していたと思います。初めての経験でも積極的な活動や発言が見られ、ここから活動が広がる未来が見えて有意義な三日間だったと思います。

(リッカ 長久保潤也)

海岸清掃



リフレクション



ハンセン病の療養所を初めて訪れて、その場にはないと感じられない空気感や、歴史に触れられたと思います。

(エルモン 伊藤聖矢)

今まで話したことのなかった人と話す機会が多くあったので良かったです。夏のワークキャンプのイメージをつかむことができました。

(ジャックハムでん 西田添恵実)



祝島訪問

～グローバルツアールームとは～

持続可能な開発、持続可能な社会づくりに関わる多様な社会課題を抱える地域に足を運び、そこで生活する人びと・くらし・コミュニティ・固有の課題/価値観に触れることのできるグローバル(地球規模の/地域的な)ツアーを企画・実施するルームです。



ポテ治が選ぶ最高の一枚



そんな生活の中で生まれた“生きている”という実感が、とても心地良く残っています。

5/2~7 の 6 日間、山口県上関郡上関町にある祝島を訪問してきました。人口約 280 人、高齢化率 75%以上のこの島は、40 年の間原発誘致への賛成/反対による対立が起こってきた島でもありました。

そんな祝島での生活は“手触り”にあふれていました。島を歩くだけで誰かに出会い、暮らしに出会い、社会課題にも出会ってしまう。普段の暮らしでは距離を感じることも、ここなら手を伸ばせば届きそう。そんな生活の中で生まれた“生きている”という実感が、とても心地良く残っています。

昔ながらと新しさ、島の内と外、様々なモノが縋い交ぜになって成立しているこの島がどんな未来を描いていくのか、また肌で感じ取りに行きたいと強く感じた訪問でした。

文章：南川魁生さん/ポテ治

田植えイベント



今日も明日も、
おいしくお米を食べたいな。

ゴールデンウィークの田植えイベントは、ミチのムコウさんの酒米プロジェクトの一つです。今年是一般の参加者さんと WILL メンバーが混ざる形でチームを編成し、苗を植えました。私たちの役割はそのリーダーとして植え方を解説したり、盛り上げ役になったりすることです。参加者の中には、田んぼにおなかをつけて平泳ぎをし、泥だらけになった子もいました。大人も子どもも泥にまみれつつ、お米ができるまでにたくさんの作業があることや、手で苗を等間隔に植える工夫を学べたと思います。腰を上げて遠くを眺めた時の、ずらりと並んだ苗が揺れる様子に感動し、その成長を思って清々しい気持ちになりました。今日も明日も、おいしくお米を食べたいな。

文章：前崎汐音さん/情ズ

～農村レジリエンスルームとは～

「農」の生活に触れ、持続可能なライフスタイルのあり方を捉え直すルームです。



情ズが選ぶ最高の一枚

大船渡訪問

災害復興支援
ルーム

6/23-6/26の4日間、WILLメンバー20名で、大船渡市赤崎町に訪問しました。赤崎復興市のボランティアとして、屋台の出店（たこ焼き・焼きそば・スーパーボールすくい）や運営のサポートを赤崎復興隊の方や地元の東朋中学生達と行いました！

〈参加者の声〉

今回は4年ぶりの赤崎復興市を盛り上げに行ってきました！看板やテントの準備、チラシのポスティングを行いました。前日は雨が降り、天候が心配されましたが、復興市当日は雨も降らず、晴れ間も見えていました。復興市が始まり、最初は人もまばらで不安でしたが、その後はお客さんも増え、焼きそばは売り切れ、たこ焼きは100食以上を売り上げることができました！スーパーボールすくいにもたくさんの方が遊びにきてくれました！東朋中学校の皆さんが、楽しそうに作ったり売ったりしている様子が印象的でした。楽しかった、またやりたい！という声を聞いて、次の復興市では、東朋中学校の皆さんと協力して盛り上げていきたいなと思いました！

(ククロ)



居場所づくり
ルーム

あーち合宿

7/1-7/2の2日間、「よる・あーち」のメンバーで神戸市北区にある「しあわせの村」での「あーち合宿」に行ってきました！屋内縁日や音楽会などのプログラムが行われました。

〈参加者の声〉

普段は金曜日に集まる「よる・あーち」の参加メンバーで、違う場所に行くということでドキドキでした。ペットボトルボウリングなどの手作り遊びを楽しんだ縁日、雨が上がった際になんとか決行できた花火、「しあわせの村」の施設を使った思い思いの遊び。これらのプログラムを通して、通常の「よる・あーち」では見えない特技、思いやりなどの新たな一面を知ったり、とびきりの笑顔と出会ったりできました。特に、音楽会で歌い踊りながら盛り上がっていたのが印象的でした！
これからの「よる・あーち」でも、今回見えた個性をもっと活かしたい！と感じました。

(ペンギボ)



アースデイ コウベ
EARTHDAY KOBE 2023

アースデイとは、「地球環境を考える日」として1960年代にアメリカで提案された記念日です。この記念日にちなんで、毎年神戸みなとのもり公園でゴールデンウィーク期間に開催しています。5/4、5/5の2日間で約60のお店が並び買い物やお昼ご飯、ヨガや子供たちが楽しめる体験型のワークショップを通じて「環境」「子育て」「スローライフ」といったテーマに触れられる場となっています。

場所：みなとのもり公園

日付：5/4・5/5

WILLでは、「ぶらっとつながるすとあ」をテーマに「災害復興支援ルーム」からはミシンの会のみなさんが作ったポーチやカバンなどを、「ワークキャンプルーム」からは邑久光明園付近の浜辺で拾った流木を、「グローカルツアールーム」からは光の教室のポストカードやchiffon工房のアクセサリなどを販売しました。また、「農村レジリエンスルーム」からはミチのムコウさんの日本酒瓶を、「居場所づくりルーム」からはあーちで作成した風車を並べ、お店を彩らせました。



ちよこっと商品紹介

これらの商品の売上の一部は製作者さんにお送りしています。

東日本大震災後に赤崎に届いたミシンをきっかけに結成されたミシンの会のみなさんが作った鞆やポーチ。

ミシンの会の皆さんには、商品を購入した方のチェキとメッセージをお送りしました。



chiffon 工房は光の教室のスタッフが作った“日常をそっと彩るアクセサリ”“るんっと気分の上がるアクセサリ”を販売しました。売り上げは、光の教室の事業に使われています。



『光の教室』はインド・ムンバイで貧困などの理由で学校にいけなくなった子供たちの識字教育支援を行っています。いまではムンバイのダンススクールと共に表現活動を中心とした事業を続けています。

今回は、光の教室の子供たちが書いた絵をポストカードやカバンにして販売しました。

「ぶらっとつながるすとあ」という名の通り、たくさんの方がぶらっとお店に立ち寄って、会話を通じてつながることができた2日間でした！

特に邑久光明園の海岸清掃で拾った木製の兜は、お店の前を通るお客さんの目を引き、兜を通じて WILL の活動の話で盛り上がっていたのが印象的です。

ブースに立つメンバーが商品を通してお客さんと話したり、メンバー同士で WILL の活動を語りあうことで、WILL をより知ることができ、次の活動へのワクワク感が高まったのではないのでしょうか。

素敵なブースが作れたのは、当日ブースに立ってくれた方、準備段階から手伝ってくれた皆さんのおかげです。ありがとうございました！（マグリ）



私は9歳の頃から、缶飲料のプルタブを収集しています。プルタブを160万個集めると、車椅子1台と交換していただき、寄付することができます。家族や親戚、友人、ボランティア先の方々などの協力もあり、現在およそ10000個のプルタブを集めることができました。大きな紙袋いっぱい集まったプルタブを見ると、一人で少しずつ集めていた頃がとても懐かしく感じます。また、今まで協力していただいた方一人ひとりの顔や、そのときの会話一つひとつが浮かびます。私にとってプルタブは、時間を越えて人との温かいつながりを生む、思い出のつまったものです。いつか多くの人の想いが誰かに届きますように。缶飲料を飲む際は、プルタブを外して、ふるりまで持ってきていただくと嬉しいです！（ふるり）

3年くらい前から車を運転する際に、制限速度を守ることを意識しています。こう言うと「ルールをきちんと守ろう」という意見に思われそうですが、ちょっと違って、僕は自分を失わずに運転するための手段として大切にしています。運転する機会がある人で速度を出しがちな人は、ぜひ一度試してみてください。まず周りの景色の見え方が違いますし、ちょっとしたアクシデントも落ち着いて対処できます。同じことは歩いているときにも言えると思います。歩を緩めて一歩いっぽ確かめつつ歩いてみたら、気持ちが落ち着いたことはありませんか。僕はこういう感覚こそが未来につながると信じて、大切にしたいと思っています。（はんはん）



セブ島のオスロブというスポットで見たジンベイザメです（バレット）

「プレバト!!」というTV番組をご存じでしょうか？番組の後半に、夏井いつき先生が出演者の俳句を査定するコーナーがあります。自宅近くで開かれた夏井先生による講演会に参加したことをきっかけに、昨年の秋ごろから俳句づくりに取り組んでいます。〈歳時記（＝季語辞典）を眺める〉〈名句を鑑賞する〉〈自分で作る〉を繰り返すうちに、季節の移ろいに敏感になり、風物への感性が増した気がします。WILLの活動の振り返りとして、さまざまな感慨や想念から俳句をつくり出すようにしています。心情を俳句にすることで、気持ちが整理され、心も癒えるように感じられます。季刊WILL夏号でも一句！（どりぶろ）

「季刊WILL 願ひ五色や 星祭り」

【企画②：暮らしのワンポイント】

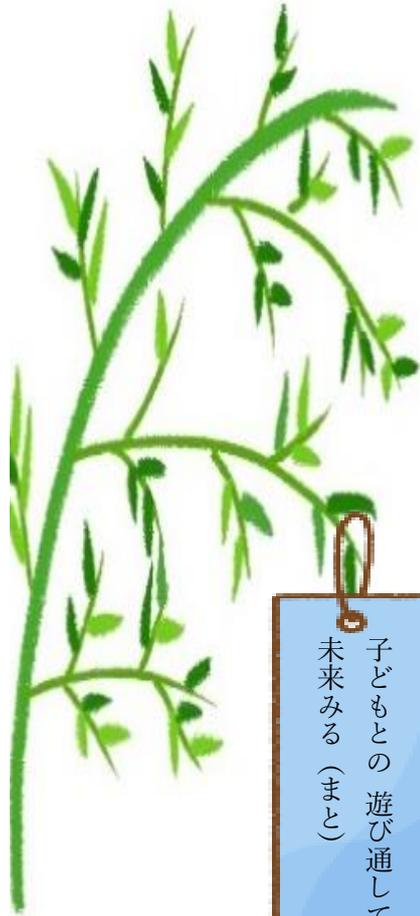
活動の場でしか会うことのないあの人は、普段どのような生活を送っているのでしょうか？何気ない暮らしの中の、ちょっとしたこだわりを覗いてみました！

WILL'S コラム



【企画①：七夕でお願いしたいこと】

7月といえば七夕です！WILLメンバーは
どんなお願いをしたのでしょうか？



子どもとの遊びを通して
未来みる (まと)

専門分野だけでなく幅広い知識を得ることと、残り半年を健康に過ごすこと (ぐるこう)

阪神優勝！ (オレス)



やりがいのある納得できる
仕事に就いて充実した生活を送りたい (キラミカ)



七夕モードの最寄り駅 (H.W さん)

不安定な身体と共に健康でい
られますように。変容に寛容で
ありますように。(I, Mさん)



「丹波立杭焼のお茶碗でご飯を食べること」です。丹波立杭焼は丹波篠山市の陶器の特産品です。初めて知ったのが小学4年生の社会の授業で、そこからコップなどの食器を集めるようになりました。丹波立杭焼にこだわるのには他の市販の食器と違い、そのお茶碗に芸術があることです。一つ一つ表情が違い、この世に一つとないものを探し、納得したお茶碗で白米を食べると非常に生活の質が上がっているように思えます。また、地域産業の応援にもなると思い、集めています。それによって、私は地元が好きになったなと感じています。今ではお酒だったり、黒豆だったり、栗だったりと広がりました。私の農レジ活動のバイブルにそういった地元愛があるかもしれません。お茶碗は毎日の食事です必ず手に取るものですから、特にこだわってしまいます。(くま命)



ダンロップ (後藤聡美)
WILL発の新しい学びの形や社会が
変わるきっかけを一緒につくって
いきましょう！



オリン (竹之内謙吾)
スポーツをしたり、写真を
撮ったりすることが好きです！

かつ鉄
レアキャラと化していますが、細くても長く色んなこと
を続けたいです。



バレット (瀬戸田恵李)
神戸大学農学部の2回生 趣味はダイビング
WILLでは色々な人との交流を楽しみながら活動
していきたいです！



ビズ (永尾信久)
合気道と温泉とインドと夏の
ワークキャンプが好きです！



つんしお
蓄エネルギー物質を研究
する予定です！バドミン
トンもしています！



ポテ治 (南川魁生)
人と話すの好きなのでみなさんの
好きなもの教えてください～



マグリ
今年はお気に入りのオレンジ色
のカメラでWILLの写真を撮りたい
なと思ってます^^



ぐるこう (Takashi Wada)
専攻は惑星学です。銀河形成
などの現象を計算機で再現する
シミュレーション天文学に興味
があります。

事

務

局

だ

よ

り

寄付について

WILL では年間を通して寄付を募っています。ご協力
いただける方は、下記振込先までご入金いただくか、
クレジットカードでのお支払いをお願いいたします。

〈お振込先〉
金融機関名：ゆうちょ銀行
店名：四三八 (ヨンサンハチ)
店番：438
預金種目：普通
口座番号：9564644
口座名：ESD プラットフォーム推進ネット

詳細はHPにて



総会が実施されました

2023年5月21日(日)のWILL総会にて、昨年度
実績をもとに年間計画や予算・運営体制等が策定さ
れました。参加された方もそうでない方も、ぜひ改
めて議事録および総会資料をご覧ください。

会員情報



メンバー80名、ユーザー188名となりました！
(7月現在)
メンバー再登録・会費納入がお済みでない方は、忘
れずに手続きをお願いいたします。



新事務局体制の紹介



ルーム体制スタートとあわせて、事務局体制が新しくなりました！
16名の事務局メンバーの皆さんから一言ずついただきました！



クロロ
国際人間科学部の3年生です！
1年間デンマークに留学
します🇩🇰



豆ロー (大垣航世)
持ち前の明るさでWILLにもっと
笑顔をお届けして参ります！



情ズ (前崎汐音)
来年から新生活が始まるので
ライフスタイルを捉え直しています。

んぼん (木下栞)
色んな場面で温かく濃い時間を
過ごしましょ〜！🎵



シャックハムでん
(西田添恵実)
作業療法を学んでいます。
これからの活動に全力で
取り組みます！



ペンギボ (福島佐和美)
国際人間科学部 4年です。
人と繋がる喜びを、WILLで
感じてもらいたいです！



ふるり
様々な背景や関心をもつ人と、
丁寧時間をかけて、温かいつながり
が生まれたらいいなと思います。
よろしくお祈りします！

2023年度はその他14名の運営委員、5名の
評議委員の皆さんと共にWILLを支えていきます！
詳細については、総会資料をご確認ください。

季刊WILL夏号2023編集委員
かつ鉄(佐藤)・きよ都(東)・パフユ歌(阿部)・
ふるり(大前)・ペンギボ(福島)・マグリ(三野)・
レモフィー(山本)・んぼん(木下)
二〇二三年七月七日(金)発行

【お問い合わせ先】
ESDプラットフォームWILL事務局
〒657-8501
兵庫県神戸市灘区鶴甲三一一
神戸大学大学院人間発達環境学研究所
ヒューマンコミュニケーション創成研究センター
電話 078-803-7970
メール esd.platform.will@gmail.com

《編集後記》
季刊WILL夏号、最後まで読んでいただきありが
とうございました！2023年度から新しくル
ーム制度が始まりました、新メンバーが増えたことも
あり、今回の季刊WILL作成では新しい試みを行
いました。毎回、事務局メンバー中心で作成してい
ましたが、今回は初編集のメンバーがほとんどでし
た！過去の季刊WILLを参考に一から作成して
くれ、どのページも楽しめる季刊WILLになっ
ているのではないのでしょうか…！（皆ありがどう！）
上半期を振り返り、今後のWILL体制や活動に
思いを巡らせながら、この暑い夏も乗り切りましょ
う！
次回発行は秋号です🍁季刊WILLを作成してみ
たい！というメンバーを随時募集しています。興
味のある方は遠慮なくWILL事務局までお知らせ
ください🎵



夏の活動紹介



今年の夏、7～9月にある活動を紹介します。他にも興味のある活動を見つけみてください！
WILL マグ、Time Tree、ESD スタディツアープログラムサイト等の活動情報も随時チェック！

夏のワークキャンプ



▶日時

2023年8月18日(金)～8月24日(木)

▶場所

国立療養所 邑久光明園

▶活動内容

入所者の方々との交流や海岸清掃を中心としたボランティア活動に取り組みます。1週間の共同生活やボランティア活動を通じて、参加者それぞれに持続可能な社会づくりに向けた新しいアクションへのきっかけが得られることを目指します。

ワークキャンプ
ルーム

大船渡訪問



▶日時

2023年9月後半(日程未定)

▶場所

岩手県大船渡市赤崎町

▶活動内容

6月には、4年ぶりに開催された赤崎復興市のボランティアとして訪問し、赤崎復興隊の方々や地元の中学生の生徒さんと一緒に復興市を盛り上げることができました。
この9月も同じ赤崎復興市のお手伝いに行きます。どのような訪問になるのでしょうか？9月のご案内をお楽しみに！

災害復興
支援ルーム

インドスタディツアー



▶日時

2023年9月1日(金)～9月12日(火)

▶場所

インド ムンバイ

▶活動内容

スラムの子どもたちの支援を行う「光の音符」という団体が主催するインド・ムンバイのスタディツアーです。インドのくらしや文化を体験し、スラムに暮らす子どもたちが主役になるダンスステージのお手伝いを行います。

グローバル
ツアールーム